



学校だより 3月号

発行日 令和6年2月29日

大志の学び舎

世田谷区立太子堂小学校



『教師は授業 家庭は愛情 地域で育つ 11年間』

3月の目標

人格の完成を目指して
「あいさつ」

<安全>

- 一年間を振り返ろう。

<保健>

- 耳を大切にしよう。
- 健康生活の反省を
しよう。

<給食>

- マナーを身に付け、好
き嫌いなく楽しい食事
をしよう。

<あいさつ>

- あいさつの仕方を
工夫しよう。

今年度最後の月に思うこと

校長 鈴木 忍

本当に早いものでもう3月。令和5年度 最後の月になりました。

2月22日に、6年生を送る会がありました。とても寒い日でしたが、体育館の中は6年生への感謝の気持ちであふれ、心が温まる会となりました。

その学年の出し物も個性が輝く楽しいもので、笑顔がいっぱいでしたが、6年生から5年生への委譲式が始まると、途端に空気が引き締まり、全校で6年生最後の鼓笛演奏を見届けました。堂々とした姿と力強い演奏に胸がいっぱいになりました。その後の5年生の初めての鼓笛演奏も、最高学年への決意が感じられる素晴らしいものでした。



ところで、皆さんは「ジャネーの法則」をご存知ですか？19世紀にフランスの哲学者、ポール・ジャネーが発案し、甥の心理学者、ピエール・ジャネーの著書で紹介された法則です。

「人生のある時期に感じる時間の長さは、年齢の逆数に比例する」

同じ1年という時間も、50歳の人にとっては人生の50分の1、5歳の人間にとっては5分の1です。年齢が上になればなるほど、一定の時間の人生に占める割合は小さくなるので、時間が経つのを早く感じる、ということらしいです。単純計算すると、7歳の1年生が感じる1年間、365日の長さを、私たち大人は70日程度に感じていることになります。

大人になるほど月日が経つのを早く感じる理由として、もう一つ説があります。

人間は初めての体験に触ると、そのことが強く意識に残り、時間が長く感じる、ということだそうです。毎日同じことを繰り返すルーティンワークの日々はあっという間に過ぎてしまうように感じるそうです。大人は「初めて」が少なくなる分、毎日も早く過ぎてしまう、という訳ですね。

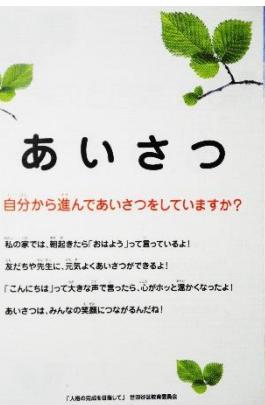
今回この学校だよりの原稿を書くに当たって、私が太子堂小学校に来てからの学校だよりの3月号を見返してみました。令和元年度は臨時休校のお知らせでした。それからの3年間は、毎年新型コロナウィルスの感染に言及する内容でした。令和2年度の学校だよりに、こんな1文を見つけました。

「あの時は本当に大変だったね。」

「毎日マスクしてたっけ。」と、笑って話せる日が1日も早く来ますように。

令和5年度の1年間、太子堂小学校の子どもたちが、毎日「初めて」に出会って、ワクワク、ドキドキして、キラキラと輝くような、私たち大人の体感よりもはるかに長く充実した日々を過ごしていくなら、こんなに幸せなことはありません。そしてそれが何よりも幸せなことであることを、マスクをしなくてもよくなつた私たちは決して忘れてはいけないと改めて思いました。

最後になりましたが、保護者の皆様、地域の皆様、今年度も本校の教育活動にご理解とご協力を賜りまして、本当にありがとうございました。



自分から進んであいさつをしていますか？

私の家では、朝起きたら「おはよう」と言っているよ！

友だちや先生に、元気よくあいさつができるよ！

「こんにちは」「ううん」と言ったら、心がホッと温かくなつたよ！

あいさつは、みんなの笑顔につながるんだね！

「人間の声を發揮して」世田谷区教育委員会

〒154-0004

世田谷区太子堂5-7-4

電話 03(3413)4621

FAX 03(3413)4799

Email: dai004@setagaya.ed.jp